

美術

印象派・印象主義

印象派（印象主義）絵画の特徴

「戸外での制作」「固有色の否定」「影から黒の追放」「筆触の並列」「色調の分割」など。

色彩は光によって生まれるとの考え方に基づき、現実的な視覚効果を追求した。

※「印象派」は、音楽等、美術以外の芸術分野の用語としても使われる。

1. モネ

- ・色彩が光によって変化することに気づき、光を色彩（絵画）で描写する方法を研究した。

- ・印象派の大きな特徴である、「色調分割」の方法を考え出した。

※絵具を混ぜないで、原色のまま塗った方が明るい色彩、輝く光が得られやすい。

- ・第1回「画家、彫刻家、版画家の匿名協会」展（1874年）、以降展覧会は8回開催された。

※モネ、ピサロ、ドガ、ルノワール、セザンヌ、シスレーらが出品した。

※「印象派」という呼称：モネの出品作《印象、日の出》（1873年頃）に由来する。

※新聞記者ルイ・ルロワが記事の中で、嘲笑的・批判的に用いて、その後定着した。

※他に「非妥協派」、「独立派」（ドガらが提唱）の呼称もある。

2. ジャポニスム

- ・モネ、ゴッホ、異国趣味（文化）の影響

3. ドビュッシーと絵画

- ・交響詩『海』（1905年）と葛飾北斎《神奈川沖浪裏》（1831年）